

頸癌の遠隔転移と末梢血中の癌細胞

弘前大学医学部産科婦人科学教室

品川 信良 須藤 一成 松本 新

頸癌の治療は従来、原発巣と所属リンパ腺とに對して主として行われ、遠隔転移については余り考慮が払われなかつた。

他方、癌患者の流血中に癌細胞が検出されるという事実はすでに古くから認められていたが、Engell¹⁾や Sandberg²⁾等の研究が契機となつて最近、頸癌についても種々の研究がすすめられている。この問題の概略とこれに対する私達の見解はすでに産婦人科の実際³⁾誌上に報告の通りであるが、本稿においては、頸癌剖検屍42例にみられた遠隔転移と、各種産婦人科悪性腫瘍患者45例についての末梢血中癌細胞の検索成績とについて報告するとともに、癌細胞とかなり紛らわしい異型細胞を末梢血中に見出すことは、癌でない場合にも決して稀でないことについて述べる。

成 績

1) 剖検屍42例の遠隔転移

従来、頸癌の遠隔転移は主としてリンパ行によつて行われ血行性のものは少いとされてきたが、弘前大学医学部附屬病院産婦人科において、1948年から1959年までの12年間に死亡した頸癌の剖検屍42例についての遠隔転移を見ると、表Ⅰに示すように、肺が18例(43%)で最も多く、次いで肝13例(31%)、腎8例(19%)、以下脾や骨の順となり、血行性転移によると思われる遠隔転移は少

表Ⅰ 頸癌剖検屍42例の遠隔転移

転 移	例数	%
肺	18	43
肝	13	31
腎	8	19
脾	7	17
骨	5	12
大 網	4	10
腸間膜	3	7
横隔膜	2	5
其の他	9	21

くとも末期の頸癌では少くない。

2) 癌細胞の流血中出現頻度

そこで、生存中の頸癌患者の末梢血中には癌細胞がどれ位認められるかを宇野の二重蓚酸法⁴⁾を用いて検索した。

すなわち、二重蓚酸溶液2ccを入れたスピッツ・グラスに肘静脈血5ccを移し、2,500回転15分間遠心沈澱し、上層を捨て、有核細胞層を毛细管ピペットで吸引して、のせ硝子にのせ、その上にアセト・ゲンチアナ・ビオレットまたはアセト・アニリン・ビオレットを1滴滴下し、デッキ・グラスをかぶせて鏡検した。

卵巣癌、悪性絨毛上皮腫を含む45例の産婦人科悪性腫瘍患者についての末梢血中への癌細胞の出現頻度は表Ⅱにみるごとくである。

表Ⅱ 癌細胞の流血中出現頻度

病 名	例数	疑陽性 (%)	陽 性 (%)
子宮頸癌	I 期	4	1 (25)
	II 期	6	0
	III 期	9	0
	IV 期	15	5 (33)
	小計	34	6 (18)
術後再発	6	1 (17)	0
卵 巢 癌	1	0	1 (100)
外 陰 癌	1	0	0
悪 絨	3	0	0
計	45	7 (16)	3 (7)

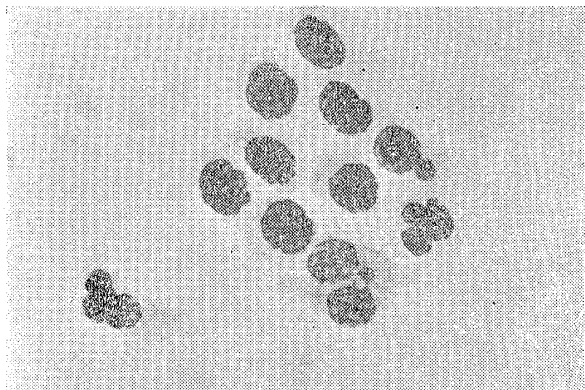
癌細胞と思われる細胞を認めたものは卵巣癌の1例を含めて僅か3例(7%)、疑陽性と判定されたものは7例(16%)であつた。このうち頸癌34例だけについてみれば、陽性のものはⅢ期とⅣ期とそれぞれ1例ずつ計2例、疑陽性のものはⅠ期に1例、Ⅳ期に5例で計6例であつた。他方、肘静脈血では再三の検査にもかかわらず癌細胞は陰性であつたが、剖検時に得た内腸骨静脈中には癌細胞を確実に認めたものが1例ある。

3) 手術操作と異型細胞出現との関係

表Ⅲ 非癌患者における手術操作と
異型細胞出現との関係

病 名	例数	異型細胞(%)
人工妊娠中絶直後	14	4 (40)
分 娩 直 後	6	2
開 腹 手 術 時	2	0
計	18	6 (33)

人工妊娠中絶患者の血中にみられた異型細胞の集団



疑陽性としたいわゆる異型細胞は、主として末期癌に多く見られたが、初期の癌患者や癌以外の患者の手術や分娩の際等にもしばしば認められた。表Ⅲは人工妊娠中絶直後、分娩直後および開腹手術（非癌患者）時におけ

る異型細胞の出現頻度を示したものである。この成績によると、手術時等には癌でなくてもその約 1/3 の症例には異型細胞が認められるから、末梢血の塗抹標本による癌細胞の診断はとくに慎重でなければならないことがわかる。附圖は、妊娠2カ月で人工妊娠中絶を行つた患者の中絶直後の末梢血中に見られた、癌細胞とやや紛らわしい異型細胞の集団である。

結 論

- 1) 剖検屍所見からすれば、血行性撒布によると思われる遠隔転移は頸癌でも決して少くない。
- 2) しかし、頸癌患者の末梢血中に癌細胞を確認出来ることはそれ程多くない。
- 3) 癌細胞と紛らわしい異型細胞はしばしば癌以外の疾患の手術患者等にも認められる。

文 献

- 1) Engell, H.C.: Cancer Cells in the Circulating Blood. Acta Chir. Scandinav. Supplement 201, Stockholm, 1955. — 2) Sandberg, A.A.de Moore, G.E.: Examination of Blood for Tumor Cells. J. National Cancer Institute 19:1, 1957. — 3) 品川信良, 須藤一成, 松本新: 末梢血中の癌細胞, 産婦の実際, 9:218, 1960. — 4) 宇野広治: 癌患者の静脈血中の癌細胞の検索, 最新医学, 13:183, 1958.

(No. 1233 昭35・6・3受付).